

「第 253 回定期演奏会」公演直前通信 ♪

リハーサル初日、佐渡裕マエストロにインタビューにお答えいただきました。

—第 253 回定期演奏会への出演を急ぎょお引受けいただきましてありがとうございます。

今のお気持ちはいかがですか？

ウィーンの演奏会がロックダウンのためキャンセルになってしまい、本当は 14 日の夜にヨーロッパに飛ぶ予定だったのですが急にこの週が空いたので今回出演させていただくことになりました。センチュリーは自分が若い頃にお世話になったオーケストラで、ずいぶん勉強させていただきました。今回は曲目もとても面白いし、再びセンチュリーを指揮してシンフォニーホールの舞台に立るといのは特別な喜びです。



—センチュリーとは様々なコンサートで共演をさせていただいておりましたが、定期演奏会には実に 2 3 年ぶりのご出演となります。抱負をお聞かせください。

やはり定期演奏会は練習時間も長いしオーケストラにとって看板商品です。毎月センチュリーの音を聴かれている方にも“佐渡が戻ってきて一味違う”と思ってもらえるような定期にしたいなど。僕自身かなり気合が入っています。

—最近では昨年 8 月の星空ファミリーコンサート（野外コンサート）で一緒いただきました。その時の印象、思い出などお願いします。

オーケストラは、日本を代表する楽団を目指し、さらに世界に誇れるレベルを目指していくのが当然ではあるのですが、一方で地元の人たちにしっかり向き合っていくということも、ものすごく大事だと思います。

センチュリーは色々な時代を経て、今こそもう一回原点に戻るといのが大切。

創設当時、自分が首席客演でいた時代とは状況が異なる部分はあると思うけれど、今こそ地元の人に愛されるオーケストラを目指してほしいと思います。8 月は、本番前に嵐になって大変でしたけれど（笑）コロナ禍にも関わらず、本当に沢山の人が聴きにに来てくれてあんなに喜んでくださって、センチュリーが豊中にあるということを感じられたと思う。そしてまたそこにいらしたお客様たちが、今度は定期演奏会に足を運んでくださればよいなと思います。

ーピアニストの清水和音さんとの「皇帝」も非常に楽しみです。

30年ほど経つかない？とにかく非常に久しぶりの共演です。

その時のプログラムは、ラフマニノフのピアノ協奏曲 2 番でオーケストラは九州交響楽団でした。僕も初めての挑戦だったので清水和音さんの家まで伺って打ち合わせさせていただきましたことをよく覚えています。今は安定感のある巨匠になられて、先月 N 響とも「皇帝」を演奏されたそうで、再会がとても楽しみです。

ーラフマニノフの聴きどころを教えてください。

ラフマニノフ、チャイコフスキー、プロコフィエフなどのロシア作品は、華やかさとロシア特有のロマンティックなメロディに溢れていてオーケストラの楽器の組み合わせも非常に面白い。誰でも一度はこのロシア物にはまってしまう時があるのではないのでしょうか。交響曲本来のスタイルよりも様々な打楽器が入っていて華やかさあり、木管楽器の種類も多くて、ラフマニノフがいかに情熱を傾けて書いたのかがわかります。これでもか、という程ラフマニノフ節が感じられます。ロシア音楽の美しさ、雄大さ、鬼気迫るような気迫も感じられます。

ー最後にお客様にメッセージをお願い致します。

センチュリー響とはツアーや特別演奏会の機会がしばしばありましたが、定期演奏会の指揮台に立てるのは本当に久しぶりです。僕にとってはすごく思い出のある大事なオーケストラです。タイトルをいただいていたのは 30 年近く前ですので、その当時からのメンバーもいれば、若い新しいメンバーもいます。自分もその間、国内外で色々な経験を積み、数多くの楽団を指揮して、成長できたと思うので、進化し、成長した佐渡裕をお見せ出来たらと思っています。シンフォニーホールでの第九等長い付き合いの中で培ってきた僕とセンチュリーの絆のようなものが音になると思います。特別な演奏会にしたいと思っています。